

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社 刈谷ケアサービスさくら)

事業所名 (短期入所生活介護さくら)

サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和 4 年 1 月 31 日		『眠りスキャン』	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 4 年 1 月 15 日		令和 4 年 1 月 31 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>短期入所生活介護にて居室 (20 部屋) に『眠りスキャン』20 台導入する。 利用者様の睡眠状態をモニターで確認出来る。 スマートフォンで見守りセンサーの情報が見れる。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) 〈介護従事者〉 『眠りスキャン』導入で利用者様が寝ているか分かるため、2 時間ごとの巡回していた回数を軽減できた。 利用者様の体調等は巡回しないと分からなかったため、精神的不安があったがモニターで、「呼吸・心拍数」が分かるため安心できるようになった。 ベッドから降りたことも分かるため転倒のリスクも減った。</p> <p>〈利用者様〉 巡回の際にモニターで睡眠中の利用者様の居室は時間をずらし訪問するなど、職員が居室に入る回数が減ったおかげで「良く寝れるようになった」「職員がすぐ来てくれるから安心して利用できる」などのお声は頂いています。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員 6 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人	介護職員 5 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
介護職員 5 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを持つことで、施設の中どこでも見守りセンサーの情報が確認できる。 ・利用者様の状態（睡眠・覚醒）の変化に素早く気づき対応する事で転倒・急変の防止 ・夕食後、居室に誘導し臥床させる際、帰宅願望などで不穏のなる利用者様を変化が分からなかったため、遅番職員に残業して貰っていたが、モニターで確認できるようになり、残業時間の減少に取り組めた。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・巡回回数を減らす事により、職員の休憩時間の確保が取りやすくなった。 ・モニターによる確認で職員の肉体的・精神的な負担が軽減した。 ・利用者の転倒リスクが飛躍的に減った。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・巡回時間にとられていた時間に、他の仕事の時間に充てれるようになり、作業効率アップ ・職員の休憩時間確保が以前より出来やすくなった。 ・利用者様が安全に利用出来るようになり、ご本人様・家族の満足度が上がった。 	



見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会医療法人杏嶺会)
 事業所名 (老人保健施設やすらぎ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和4年1月11日		眠りスキャン	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年1月11日	インカム連携	令和4年1月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】 眠りスキャンでの覚醒検知、離床検知が随時インカムに連動する事で対応を即座に判断が出来るようになっている。</p>			
<p>【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) インカムで通知がある事で不要な入室が軽減できている。 オムツ交換、トイレ介助の場面で睡眠の妨げにならないように対応している。</p>			

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
夜間の介護職員 4 名と看護職 1 名の計 5 名体制	夜間の介護職員 3 名と看護職 1 名の計 4 名体制
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
夜間の介護職員 3 名と看護職 1 名の 4 名体制 夜勤職員を減員する事で、昼間勤務者数の増加	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の I C T 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
眠りスキャンとインカム連携を導入し夜間帯の介護職員を 1 名減員した。 それにより、櫃間勤務の人員を増やし、利用者に必要なケアに充てられ、職員間の連携、委員会活動に時間を充てられている	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
現状、介護ソフトをタブレット端末でどこでも記録できる事とインカム、見守りセンサーを同時に使用することで、不効率な業務を排除して、業務のスリム化に取り組んでいる。 また、利用者には個別性を重視したケアをするような指導も行っております。 休憩時間はインカム等を駆使して、ケアの必要性の低い時間帯を職員間で連携して、時間を作りだしている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
介護業務の分業化を推奨している。間接業務はスリム化して、直接業務に時間を費やせられる環境を作り、コミュニケーションの場以外では誰がやっても同じ成果になるよう期待したい。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社さちコーポレーション)
 事業所名 (グループホームさち)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和3年12月13日		眠りスキャン・eye	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年11月10日		令和3年11月10日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全利用者を対象に、全時間帯で稼働 ・夜勤職員の見守り業務の負担軽減・効率化につなげている ・画像としてデータ蓄積されており、転倒等の状況確認にも利用 			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内すべてにおいて無線LANへの接続を確保することで、利用者の異変を速やかに気づくことが出来るようになっただけでなく、介護記録をつける際にも、どこにいてもスムーズに記録がつけられるようになった 			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
0.9 : 1	0.8 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
職員の退職・異動等が今後発生することから、人員変更前に交代職員を増員したため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠り SCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けた ・「眠り SCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった利用者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進した 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠り SCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行った ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC・モバイル端末にて、リアルタイムの各利用者様の状態確認ができるようにした ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更した ・睡眠リズムのデータを医師と共有し、状態にあった睡眠導入剤の処方や見直しを行った 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や利用者様ごとに合わせた個別ケアがさらに改善された支援となる ・利用者様を無駄に起こすことがなくなるため、利用者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・利用者様の睡眠時間確保できるようになれば、利用者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人幡豆福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームレジデンス宮崎)
 サービス種別 (介護老人福祉施設

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
2017年7月より導入	離床センサーマット		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年2月21日	28台	令和4年2月21日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

転倒防止のための離床センサーに対して通信環境 (Wi-Fi) を整備しインカムを活用する事となり、これにより職員がすぐ連絡をとりあい、近くの職員が現場にすぐ向かい事故を未然に防ぐことが可能となった。また、インカムで先輩職員に相談し指示を受け適切な対応をすることも可能となった。また、職員間の申し送りのスムーズにできている。(特に看護師と介護員の連携)

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)
 インカム活用もかなり慣れてきた。職員の連携により食堂など入居者が過ごしている場所での職員の不在時間が減少した。
 また、離床センサーへの対応も早くなり転倒前に発見することもできるようになった。
 職員間の申し送りも、業務を行いながらできるので、効率的な動きができるようになり、職員の負担と不安も減少したと言っている。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2ユニット（協力ユニット）の介護職員数 常勤7名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名	2ユニット（協力ユニット）の介護職員数 常勤6名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名 ※1名の職員をユニット所属しないフリー介護リーダーとして自由に各フロアを行き来できる職員配置。
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
まだ現在は、整備前と同じ2ユニット（協力ユニット）の介護職員数常勤7名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名体制。さらに職員連携システムが構築すれば、1名をユニット所属しないフリー介護リーダーにする予定。	
②と③が異なる場合はその理由	
まだ、インカムを活用した職員連携が十分に出来ていないためさらに連携強化してから取り組んでいく為。 コロナ感染により介護職員の出勤人数が不安定になる時があり人員体制が定まらなかった。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・離床センサーが鳴った場合、のルールが決まった。（ピッチを持っている職員と近くを通りがかった職員が同じ居室を訪室していたが、インカムで連絡し、近くを通りがかった職員が対応とのルールにした） ・利用者コールに対して、他の介助で手が離せない状況になっていたら、必ず他者にその場で応援を依頼するシステムをルール化したことにより早く利用者の下に行く事ができるようになった。 ・新人職員などが迷ったり、あるいは指示を受けたい時に、インカム活用による相談指示とし職員の動線を短くし、無駄な動きを軽減等々業務の効率化が出来始めている。新人にとってインカムがあるのが当たり前になった。 ・記録記入時間の短縮もできた 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・インカムを活用し、すぐ他職員を呼ぶ事ができることで、2名での介助がやりやすくなり利用者の安心感と職員の身体的負担を軽減させ、入浴時の応援等実施している。 ・職員間のノートによる申し送り事項とインカム活用を併用し、他職員（看護員、生活相談員、栄養士も含め）との情報共有も含め適切な利用者へのケアを行っている。 ・上記のように業務を行いながらの情報共有による効率化を図り、特に夜勤帯の休憩時間の確保を行う。可能であれば、職員の有給休暇取得日数を増やすことに努めている。 ・職員間の日頃のコミュニケーションを深め、お互いの意見などをインカムで話し合う事を習慣とし業務の効率化を図り残業をしない職場環境に努めている。 ・1名介助でやっていたことを、互いに連絡をとりあうことにより2名で対応し職員の腰痛予防を含めた負担の軽減や認知症者へのチームケアも充実させるよう努めている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>利用者の要望に素早く、適切に対応できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員（特に新人）の業務中の不安が先輩職員にその場でインカムを活用し指示を仰ぐことにより軽減できる。 ・夜勤中に関しても、いつでも応援を気楽に呼ぶことができる体制を構築し職員の負担と不安を軽減できる。 ・1人で業務を行っているのではなく、施設全体が組織として介護を行っている施設にできる。 <p>このような事から、不安、過度な負担の身体介護による離職予防に効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにより、いつでも、どこでも相談、助言ができるシステムは新人職員の不安軽減に大きく貢献する。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)

事業所名 (グループホーム「風楽里」)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

@ 「適用を受けた補助率		3 / 4		・ 1 / 2	
見守り機器の導入日			見守り機器の製品名		
令和3年12月16日			見守り支援システム「眠りSCAN」		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日		リースの契約期間	
令和3年12月16日		令和3年12月16日		令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>2021.12.16～現在まで24時間パソコンでデータ管理をしている。</p>					
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>利用者理解につながっている</p> <p>かかりつけ医への相談やご家族との面談時に、ご本人の夜間の状態を知る参考資料として提示にしている。</p>					

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤者 1 名	夜勤者 1 名
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
変化は特になし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを利用して人員が削減されたわけではないが、利用者の行動を知り、理解し。スタッフの心理的なストレス軽減につながればと実施したので、初期の目的は達成されていると思います。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>導入以前は覚醒するたび、訪室して声掛けしたり、ほぼ一晩中マンツーマン対応し休憩時間もなくなりスタッフは大きなストレスを感じていた。</p> <p>眠り SCAN のモニタリングをすることで、介入してもしなくても睡眠にはあまり変化がなく利用者自身もスタッフの介入がストレスとなり睡眠の妨げになっている要因ではないかということが分かってきた。</p> <p>これは利用者のケアの質の向上に大いに役立っていると思われる。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>今後は対象となる利用者を変更したり、モニタリングを継続していくことで利用者理解が深まることを期待している。</p> <p>利用者が良い睡眠を得られるよう、家族・かかりつけ医・スタッフ間で話し合う 1 つの材料として使用していきたい。</p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人清明福祉会)
 事業所名 (建国ビハーラてんまん)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年1月	眠りスキャン		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年1月13日		令和4年1月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

- ・フロアごとのWi-Fiを強化した上で、各フロア会議で決議したデータ取りの必要性が考えられる利用者2名の眠前薬服用後以降の入眠、覚醒、起床状況の把握とデータ取りとして使用。
- ・日付別で細かな入眠、覚醒、起床データの見える化と振り返りデータとしての蓄積。
- ・訪問診療時にDrへのデータ提出 (お薬の効果の見える化)
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- ・Wi-Fiが別途「眠りスキャン」専用で設置されたことにより、介護記録に使用しているタブレットとPCの通信が早くなり良くなったと感じる職員が多く、入力時間の効率化につながった。
- ・日々、利用者2名の入眠、起床状況の細かな把握と連続的なデータ取りができる点。
- ・過度な巡視、見守りを行う事で利用者の入眠のさまたげになる不安が解消される。
- ・PC画面上で利用者の覚醒タイミングを早期把握が可能となった点。
- ・ベッドセンサー以上に細かな体動に対する反応があり、夜勤者がPC画面を見ている時であれば、よりリアルタイムな対応につながっている。
- ・データの蓄積がすぐに見える化される為、協議検討のスムーズ化につながる。
- ・ベッドセンサーの代替機としての候補のひとつとなり得る可能性の考察ができた点。
- ・居室内スペースのさまたげにならない点。
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握が可能。
- ・夜勤者の不要であった場合の居室訪問回数の軽減。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
介護・看護職員の人員配置 3.87:1	介護・看護職員の人員配置 3:1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
介護・看護職員の人員配置 5.5:1	
②と③が異なる場合はその理由	
利用者の重度化に対応するため、人員の増加をすすめた。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
夜勤帯の巡視回数を見直し、職員の負担を軽減させた。 利用者の重度化に対応し、体調の変化や急変時にバイタル測定をし、データ化する。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠、覚醒の状況を把握することで、排泄介助、起床介助のタイミングを計り、利用者の生活リズムに合わせたケアの取り組み。 夜間帯の過度な巡視を減らす。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
夜間帯の巡視回数を減らし、職員の夜間帯の休憩時間を確保する。 利用者ごとの生活リズムを把握し、個別ケアを実践できる。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 長生福寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 二方の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和4年3月1日		HitomeQ ケアサポート	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年12月15日	46	令和4年3月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>3月から正式稼働し、職員の使用に対する習熟のフォローアップ研修を定期開催した。また、入居者様の個々の設定を正式稼働後1か月後に見直しし、その後は随時状況に合わせて柔軟に変更している。3～4か月に1回HitomeQのサーバーよりデータ収集、解析をしていただき、利用状況の確認、より有効な活用方法についても検討会を実施している。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>活用によって介護事故を防げたケース、今まで見えてこなかった事故発生前後の状況を映像データで各職員に周知するとともに、事故防止委員会等でも事例検討に活用した。1年の使用を通じて、訪室の必要性の如何を職員が判断し、事故防止における優先度の判断材料となっている。事故発生時及びヒヤリハットデータの作成時にも映像記録の日時を記載し、回覧時に状況確認をできるようになった。以上をもとに個々の入居者様への適切なモード設定を行い、安心・安全を入居者へ提供することにつながると考えている。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
日中24名夜間8名	日中24名夜間8名
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
日中24名夜間8名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
1フロア3ユニットの施設構造のため、現在フロア2名で夜間勤務を行っている。HitomeQケアサポートを導入することで離れた場所でも複数同時に早期に映像確認ができるため、フロアをまたいだ駆け付けや、通知の緊急性の把握に活かすことができる。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
夜間の巡回回数：合計8回→6回(25%減) 利用者のケアの質を向上を目指す検討会を2か月に1回開催し、現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。事故防止委員会にて映像記録の検証やどう行動すべきだったかの検証を行うことで、経験の浅い職員を含めた全職員への周知に努めている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
1時間に1回の夜間巡回の負担軽減により、介護職員の精神的、身体的負担の軽減が図れる。利用者の居室への訪問回数の減少により、安眠できる時間が増え、QOLの向上につながる。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人杏園会)
 事業所名 (介護老人保健施設かなやま)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和3年10月14日	アイコム製 デジタルトランシーバー (イヤホンマイクロホン含む)		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年10月14日	7式	令和3年10月14日	

【見守り機器の使用状況】

現行品に追加導入する形で運用させていただき、約1年半が過ぎた。その後も入所フロアの現場職員 (介護職・看護職) が常時インカムを携帯できており、加えて入所相談員も時折活用することで、業務効率が更に向上している。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

上記のようにインカムを扱う部門が増えたことで、よりタイムリーな確認作業等が、離れた場所にいる職員同士でも可能となり、利用者支援に必要な情報を漏れなく共有することができるようになった。利用者をお待たせする事が減少していることはもちろん、職員の役割分担が更に明確化されることで、業務のムダ・ムリ・ムラの発生を抑制できている。時間外労働時間については、コロナ感染対応もあったことで大きな削減はできなかったが、密を避けるための一手段となり感染終息に向け効果的であった。

チーム意識向上と見守り体制を強化させることもできており、転倒事故の発生件数が約20%低下している。

在宅復帰機能の強化は更に加速し、在宅復帰率は本年4月現在72.9%と基準を大きくクリアできていることから、老健本来の役割である、利用者の「自宅で生活したい」という希望を実現できていると考える。

今後も運用を続け、新型コロナウイルス感染予防対策 (換気・消毒作業) においても、活動を継続できるよう、職員の時間的・精神的な余裕を確保することに努めていく。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
入所部門) 介護・看護職員数： 46.4名 (常勤換算)	入所部門) 介護・看護職員数： 45.4名 (常勤換算)
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
入所部門) 介護・看護職員数： 45.9名 (常勤換算)	
②と③が異なる場合はその理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナのクラスター対応が数回あり、見込通りに人員を削減することは僅かに及ばなかった。 	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・持ち場を離れず、離れた場所にいる他職員への介助応援の要請や情報連絡を迅速に実施している。 ・ナースコール等の呼出しにスムーズに対応している。 ・コロナ感染予防対策 (定時のフロア消毒・換気) の担当職員を確保している。 ・各フロア会議に予定通り参加できるよう調整している。 ・1F事務所から各フロアへの連絡の手間を減らしている。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>(以下、インカム活用に伴い工夫している事など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの突発的な呼び出しに対して、本来の持ち場を離れることなく目の前の利用者に継続してケアを提供し、効果的な自立支援が可能となり、在宅復帰率を向上させている。 ・処置が必要なタイミングで連絡をする事で、一早く利用者の身体状態に対応している。 ・取組により産出できた時間があるため、その分を利用者の残存能力を活かしたトイレ・食事・入浴介助に当てられている。 ・様々な確認をする際の手間が減少することでしており、職員の身体的・精神的な疲労が減少した。 ・利用者様の個人情報インカムで発信できるため、周囲への情報の拡散を予防している。 ・ケアプランの目標となる生活リハビリの実施を頻度高く実施している。 ・人員不足となった日でも、他フロアへ応援を要請しやすく計画通りに業務をすすめられている。 <p>この結果、</p>	

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

- ・利用者への個別ケアに集中できる時間を保っている。
- ・利用者を待たすことが減少している。
- ・転倒件数が減少している（20%）。
- ・老健の本来の役割である在宅復帰、在宅支援機能を促進できている。
- ・LIFE へのデータ提出が継続できている、報告件数も多く維持できている。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策を継続できている。
- ・職員の身体的、精神的なストレスを緩和できている。
- ・モチベーション高く仕事へのやりがいを感じながら業務を続けることができている。
- ・有給休暇の取得率が向上している（約5%取得率向上）。
- ・ライフワークバランスを良い状況で維持できている。
- ・職員の休憩時間を法定通り確保できている。
- ・離職率を低い水準（3%）で維持できている。
- ・活用方法を工夫することで、時間外労働時間を更に削減していきたい。

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 福寿園)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわりの街)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
見守り支援	HitomeQ ケアサポート ユニカミノルタ製 QOL ソリューションズ		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 4 年 3 月 14 日		令和 4 年 3 月 14 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

全個室に見守りを目的としたセンサーカメラを設置。個人のリスクに応じてセンサーの設定を行うことでリアルタイムでの静止画・ライブ映像で可視化できるため、すぐに対応すべきか？見守りで大丈夫か？判断し活用できている。また、センサーの活用により夜間など入居者の睡眠の妨げにならないように不必要な訪室が減り、職員の行動の無駄が減らせた。

- ・ユニカサポートセンターより、入居者のセンサー設定が過剰な職員への業務負担となっていないか？また、職員はシステムそのものをどのレベルで活用できているか？実態をデータ解析し評価を受けている。
- ・センサーの範囲内での事故があった場合は、事故の記録データから状況解析を行い、可視化した情報をもとに事故対策を立てて再発防止策を打ち出している。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- ・センサーマットを使用していたが、個別設定で起床時・離床時で設定ができるためリスクの高低で対応できている。更に、ライブ映像で確認ができるので無駄な訪室が無くなり、職員・入居者ともに負担の軽減を図ることができています。
- ・居室内での転倒事故では、事故前後の動画が残り原因の確認から確実な対策が可能となった。
- ・職員個々がスマートフォンを持つことにより、直接電話で連絡を取り合うことで迅速な共有情報の配信ができるようになった。
- ・ローテーション勤務での引継ぎでは、ケア通知のチャット機能を活用し情報の伝達から集約まで行うことが可能となり確実に行うことが可能となった。
- ・夜間、入居者の睡眠状況や不眠時の危険行動などに気づきやすくなり対応がしやすくなった。また居室内への訪室回数を減らせて、睡眠時間の妨げになることが軽減できるようになった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
137人	137人
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
変更なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>2カ月に1回のペースでユニットリーダー向けにケアサポートシステムの活用状況をユニカサポートセンターがデータ解析してフィードバックを受けた。得られた情報をもとに今後の改善点やより有効に活用できる方法を検討した。</p> <p>新規採用職員、異動職員などこのシステムを新たに使用する職員には、4月にサポートセンターの職員より直接説明を受けた。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>ケア通知のメッセージ掲示板を使用して、職員間の引き継ぎを行っている。</p> <p>出勤時に前日の詳細や特記事項が分かるため助かっている。また、今日起きたこと等を掲示板に載せることで施設全体の状況が把握できるため情報の共有が今までよりも確実に became。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>入居者の個別設定が可能になったことで事故件数は減っている。このシステムに慣れすぎるとセンサーが鳴るのを待つ受け身のケアになってしまう側面がある。個人の生活パターン居室内での行動パターンを可視化した情報をもとに分析して危険予測の範囲を広げてより有効な設定をしていく必要がある。Live映像を確認後、怪我をした事例もあり、映像から得た状況から本人のもとに歩み寄り声掛けをするよう対策している。ショートステイ30床は依然として全通知設定で対応しているので通知の無駄が多い。ショートステイに関しては、検討の余地があり今後の課題となっている。</p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人フジタ)
 事業所名 (介護老人保健施設フジタ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和3年12月16日		a a m s (株式会社バイオシルバー社製)	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年12月16日		令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】 見守り支援システム (a a m s) 10台を2階フロア (5台) と3階フロア (5台) に分散させて使用している。 其々のフロアにて集中管理パソコンにてモニタリングをしている。 そのデータ収集に新たに導入したW i F i インフラを活用している。 ほぼ、全居室を網羅し、どこの居室にでも a a m s を設置しても通信に問題なく、データ収集は出来ている。</p>			
<p>【整備効果】 (時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) 通信環境においてはセンサーを感知して、モニターで確認が出来ることには問題がない。 見守り機器のセンサー反応が反応しなかったり、反応が遅く、巡視時伺うと動いてしまう事がある。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員数：50名 常勤換算数：45.9名	介護職員数：50名 常勤換算数：44.0名
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
通信環境には問題はないが、見守り機器の反応の問題であり、負担軽減には至っていないが、インフラは今後導入する機器に共有使用ができるため、人員体制も見直しが出来る。	
②と③が異なる場合はその理由	
通信環境には問題は無く、見守り機器の期待した性能との相違によるため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
現在見守りセンサー（aams）をどのような使い方をしたら人員体制の効率化に繋がるかミーティングをするなど意見を求めるも職員も使いこなせてなく誤差が多く業者と試行錯誤して改善策を模索している。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
夜間入眠時、覚醒状態や呼吸/心拍数のデータを参考にし、巡視時、見守り時は強い光をあてることなく又声掛けなしに生存確認が出来て夜間の良眠につながっている。職員の負担軽減については各職員が取り扱いを把握しなければいけないと考えられる。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・センサーが反応せず、ベッドから起き上がって数歩歩く事があったので、今後はセンサー感度をあげて反応しやすくして欲しいと思った。 ・体重の軽い人にはセンサーが反応しない事があった。体重制限があるのかが知りたいと思った。 ・職員が使い慣れていないため、「研修」が今後は必要だと思った。 ・覚醒状態が分かる様に反応しやすくして欲しいと思った。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 祖父江愛照会)
 事業所名 (介護老人保健施設 ベストライフ祖父江)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和4年2月25日		『ライフリズムナビ+Dr』 (エコナビスタ)	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年2月25日		令和4年1月6日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>3F 328-1のベッドがセンサーに反応していなかったが、動作確認したところ正常でした。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段動かない方でも、体動・離床アラートを聞き、すぐに対応できた。 ・ フットコールの場合だと利用者様が立っている状態での発見だったが、介護ロボのアラートで対応すると立ち上がり前での発見することができた。 			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
3 : 1	2.8 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
3 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
アナウンスがある為、見守り必要な利用者様を集中して見守ることが出来る。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
スタッフの行動範囲が広い為、タブレットを東西に置き、アナウンスがあった時、早急に対応できるようにした。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
介護ロボを確認することが多くなり、利用者様の行動を把握できるスタッフも増えてきている。休憩時間については、以前と変わらないように思う。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
スタッフの意識付けができてきた為、利用者様の行動変化などの早期発見ができる。	

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人社団喜峰会)
 事業所名 (ショートステイけやきが丘)
 サービス種別 (短期入所生活介護 (単独・併設型))

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和3年12月24日		眠り SCAN (パラマウント社製)	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年2月22日		令和4年2月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>通信環境の整備として無線LAN環境を整備し、居室内のセンサー使用しリアルタイムにご利用者様の状態を確認することができている。</p>			
<p>【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)</p> <p>通信環境を整備することにより、リアルタイムで呼吸数などをモニタリングすることができている。</p> <p>リアルタイムで状態を把握することができるようになり、介護職員の精神的負担を軽減することができている。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
1.9 : 1	2.3 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2.3 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>呼吸数などをリアルタイムで確認できるため、巡視に係る時間を削減している。 夜間の状態は、自動的に記録されるため、記録に係る時間を削減できている。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>ご利用者様の睡眠パターンを確認することにより、睡眠を妨げずに状態確認をすることができている。 睡眠のパターンを可視化することにより、受診時に主治医へ現状を報告することができている。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>起き上がった状態などでアラームを鳴るようにし、転倒転落予防としても使用できるようにしていきたい。 夜勤スタッフの精神的・身体的負担を軽減することができると思われる。</p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その 1)

法人名 (社会医療法人 大雄会)
 事業所名 (老人保健施設 アウン)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和 4 年 2 月 21 日	見守り介護ロボット aams 介護セット (JC-19) B018-AAMSSKS		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 4 年 2 月 21 日	35 台	令和 4 年 2 月 21 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

【aams について】

aams6 台を各入所フロアに設置 (2 階 3 台、3 階 2 台、4 階 1 台)。

《対象ご利用者》

- ・看取り対応利用者
- ・体調不良により、頻回な状態観察が必要な利用者
- ・睡眠や覚醒状況の把握が必要な利用者
- ・離床した事の把握が必要な利用者

導入から現在までに、26 名の利用者に適用。

- ・夜間の睡眠状態と排泄回数について行動把握。

【インカムについて】

インカム 35 台とイヤホンマイク 80 本を各所に配置し、当日の出勤職員が使用。

(2 階 10 台、3 階 10 台、4 階 7 台、浴室 8 台)

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

【aams ついて】

- ・看取り対象者への夜間帯における訪室回数が、3~4 回から 0 回へ減少。
- ・離床センサーを対象利用者の状態に合わせてアラームセットし対応。
- ・夜間の排泄介助 (オムツ交換) に対して介助拒否する利用者に対し、覚醒時間を把握する事で睡眠を妨げることが少なくなり、スムーズに介助出来るようになった。
- ・夜間の睡眠状態と、排泄の間隔をデータ化することで、日中の活動参加のすすめと、排泄支援に活用した。
- ・呼吸状態を把握する事が出来、異常の早期発見や、対象利用者にとって適切なタイミングにて喀痰吸引等を実施する事が出来た。
- ・訪室回数が減り常時生体状況が把握できた事で、職員の精神的身体的負担が軽減した。
- ・看取りケアを施設全体で行うことの定着。

【インカムについて】

- ・利用者からのナースコールに対して対応するスタッフの重複が無くなった。
- ・電話取りつぎの際にかかる時間の短縮が図れた。
- ・大声で他スタッフを呼ぶことが無くなった。
- ・特定のスタッフを探しやすくなった。
- ・入浴誘導時、利用者衣類等の不足物の連絡を迅速のおこない、利用者の待ち時間の短縮で精神面の不安と苦情発生リスクの減少につながった。
- ・看護職と介護職間の情報伝達に使用し、スムーズな対応が可能となった。
- ・スタッフの業務開始及び終了時等の連絡に使用する事で、スタッフの所在確認がスムーズに行えるようになった。
- ・業務指示や報告に使用する事で、速やかに業務遂行可能になった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
1:1	0.75:1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
施設事業運営方針の変更により在宅強化型から超強化型へ転向した。業務内容の多様化により人員体制の変更なし。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>【aams について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロア内で環境整備し受信機器設置。 ・対象者選定。 <ul style="list-style-type: none"> 対象者別の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 看取り対応の方（生体情報を把握） 体調不良の方（生体情報を把握） 睡眠・覚醒状況を把握する方（覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助） 離床を把握したい方（転落予防） <p>【インカムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のナースコールに対してスタッフが重複しないように連絡しあった。 ・電話を取り次ぐ際に呼び出しに使用。 ・特定のスタッフに連絡する時に使用。 ・入浴誘導時、利用者の不足物をフロアに依頼する際に使用。 ・看護職と介護職間の情報伝達、確認に使用。 ・業務開始時、終了時の連絡によりスタッフの所在確認。 ・その他、業務指示や報告等に使用。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>【aams について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体情報を把握することで、他利用者への早期対応が可能になった。 ・訪室回数の軽減により身体的負担が軽減された。 ・状態変化の把握ができることで職員の精神的負担が軽減された。 ・睡眠や覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し安眠につながった。 ・覚醒状態を把握することでスムーズに介入できた。 ・転落予防にて使用し、転落はなかった。 <p>【インカムについて】</p> <p>ナースコールに対応する際に「コールに対応します」とインカムで伝えた。</p>	

休憩または業務に入る際に責任者を探すことがなく、インカムを使用し速やかに休憩または業務に入るようになった。

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

【aams について】

- ・利用者の生体情報および離床センサー情報、覚醒状況の情報の共有により入所フロア全体でのスタッフの協力体制の確立が期待できる。
- ・訪室回数の軽減により、職員の休憩時間の確保ができる。
- ・状態変化の把握ができることにより、職員の更なる精神的負担・身体的負担の軽減が期待される。
- ・覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し睡眠を妨げることがない為生活の質が向上する。
- ・入所者の睡眠のリズムが把握でき日中の活動参加をスムーズに勧めることができる。

【インカムについて】

- ・利用者の情報共有を迅速に行え、対応が早くなり、利用者の待ち時間の短縮により精神面の不安や苦情発生リスクの軽減に繋がると期待できる。

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人樹の里)
 事業所名 (地域密着型特別養護老人ホームフレ樹の里)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
平成 31 年 4 月 5 日	眠りスキャン		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 3 年 12 月 27 日	20 台	令和 3 年 12 月 27 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

- ・インカム使用対象職員を各部署に振り分けて使用している。介護職、看護職が主として使用し、引き続き日中用と夜間用に分けている。時々、不具合が出るので、その際は使用頻度の少ないインカムで代用する必要がある。
- ・出勤時から退勤時まで入浴介助や休憩時間以外は常に装着する形を現在も継続して行っており、インカムの電池切れを防ぐ為、中央ホールに充電機交換スペースを設け、現在も対応している。
- ・インカム保管場所については職員更衣室前にピンマイクと本体があり、各職員にはイヤホンを配付し、個人管理をしている。使用上、劣化による破損などの報告も挙がってきている為、不具合のあるイヤホンがあれば申し出てもらい、買替えしている。

【整備効果】

- (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)
- ・インカムの使用操作にも慣れてきており、業務連絡や入居者様の状態確認などリアルタイムで情報を発信する事が出来ている。
 - ・ユニットや事務所など職員の所在把握としてインカムを活用し、インカム未装着により応答がない場合は内線電話を併用して連絡が常に取れる環境を作る事が出来ている。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
1:1	0.6:1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤の休憩など職員間の連絡が取りやすい為、時間帯の確認や入居者様の情報を共有しての対応も容易となっている。休憩中は、インカムとPHSを手元に無い状態とし、メリハリをつけるようにしている。 	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤でも眠りスキャンと連動する設定により耳から入る情報を夜勤職員同士で共有し、対応が難しい場合は協力し合う事も出来ている。入居者様のベッドからの起き上がりや立ち上がりの状況を認識し、対応優先度の判断にも繋がっている。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・休憩取得のタイミングの連絡、確認にも活用出来ている。 ・コール対応が複数同時の時は、継続してインカムで速やかな協力依頼をして対応している。 ・PHSの操作時間や直接話をするために会う時間を省略し、入居者様のケアに集中できている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドからの起き上がりを早く察知することで転倒や転落防止をすることが期待できる。 ・1人で介助する際にどうしても援助が必要なシーンになった場合に、素早く援助を申し出ることができる。 ・PHSのようにボタンをたくさん押さず、マイクのスイッチを押すだけで会話ができるので時間短縮に繋がっている。 ・PHSだと持っている職員にしか連絡することができないが、インカムであれば全職員に声かけをすることができるので、聞いた職員で手の空いている職員が速やかに行動することができている。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人春岡会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム丹陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
	見守り支援システム「眠りSCAN」 パラマウントベッド(株)		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年12月1日		令和3年11月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

- ・「睡眠調査」「安全調査」「看取り対応」の3つの調査をすることを使用の原則とし運用基準を継続。
- ・1利用者につき、1か月間「眠りスキャン」を設置し、データ収集であったが、データ収集の期間が短いとの意見あり、3か月間へ変更しデータ収集を実施。
- ・転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定しているが、アラーム設定をする利用者が多く、対応が大変になっているため、再度、高リスク者の選定を検討中
- ・看取り期のアラームを設定については、問題なく対応ができています。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・前年度と同様に、利用者様の睡眠状況がデータとして見える化されたため、より具体的な対策が打てている。
- ・前年度と同様に、利用者様の睡眠状況に合わせたオムツ交換をすることができている。
- ・看取り対応時に、死期の予測がある程度できるようになったため、ご家族への早期連絡や、職員の不安が解消され、落ち着いて対応できるようになった。

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
1. 9 : 1	2. 1 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2. 1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニット5台ずつ設置の継続 ・巡視時間の短縮 部屋に訪れることなく、眠りスキヤンの画面確認にて巡視完了としたことでの効率化を継続 ・眠りスキヤンのデータ分析により、利用者様の睡眠傾向を把握し、眠剤の調整やパット交換時期の調整で、利用者様の生活スタイルに合わせることで、巡視や排泄交換の効率が上がり、時間の短縮となった。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の状況を分析し・調整しによる利用者様に合った睡眠時間を確保の継続 ・利用者様のニーズに合わせた眠りスキヤンの設置し、安眠対応の継続 ・夜勤の休憩時間の確保の継続 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定しているが、アラーム設定をする利用者が多く、対応が大変になっているため、再度、高リスク者の選定を検討し、眠りスキヤンの設置の適切な優先度を決めていく。 ・眠りスキヤンによる、データの見える化を発端に、分析する意識が職員についた。 ・根拠のある介護に向けて、改善が期待できる。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 成仁会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム メドック東浦)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
見守り支援システム	眠りSCAN (パラマウントベッド社)		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月31日	40台	令和4年3月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

特別養護老人ホームは2ユニット (20床) で職員が一纏まりとなっている。
 日中は入浴者以外全ての職員、夜間帯は夜勤者が装着することで、
 日中は2ユニットを繋ぎ、夜間は4ユニットを繋ぐ役割がある。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- ①緊急時、応援を呼ぶことができる、駆け付ける事ができる
 ご利用者様の対応に困った際、2名サポートが必要な際、応援が必要な際にインカムを活用することで、すぐに応援を呼ぶことができ、応援者も駆けつけることができる。
 その場から離れられない事も多い為、利用者様への迅速な対応、職員の負担軽減に繋がっている。
- ②情報共有が迅速に行える
 勤務を行う上で、些細な事から重要な事まで、瞬時に情報を共有することができる。
 「あの時言おうと思っていたこと何だっけ…」のように忘れてしまう心配もなく、伝える事ができる。
- ③時間の無駄を減らす事ができる
 職員へ伝えたい事がある際、わざわざ職員を探す必要はなく、インカムで場所を聞いた
 り、情報を伝えることができる。探す手間が省ける為、時間の無駄を減らす事に繋がっている。

④事故を未然に防ぐことに繋がる

利用者から目を離す時間を減らすことに繋がるため、事故を未然に防ぐ事ができる

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2ユニット（20床）で常勤7名	2ユニット（20床）で常勤9名以上
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
介護職員等の人員体制は大きく変わらず→2ユニット（20床）で常勤7名程度	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>インカム自体が介護職員の業務負担軽減や、人員体制に大きく影響していない可能性がある。 インカムには良い点もあれば、改善点もある為、今後は『不都合な点』にも挙げたが、それらをどのように対処していくのかが重要になってくる。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
日中・夜間帯のインカムの活用。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>【整備効果】でも挙げたように、</p> <p>短時間勤務労働者の雇用 おむつ、パッドサイズの見直し 介護システムの変更 リビング、居室の環境整備</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>職員の業務負担軽減。 ご利用者様緊急時での迅速な対応 時間の有効活用。効率化。</p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (ミソノピア株式会社)

事業所名 (ミソノピア)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和4年3月31日		眠り SCAN パラマウントベッド	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月31日		令和4年3月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入後、お看取りの方、新規入居でご状態が悪い方へ使用 			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りロボット導入により、緊急時の巡回回数を増やすだけでなく、常にモニター確認が出来るため、職員の不安軽減に繋がっている 			

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2. 5 : 1	2. 2 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2. 29 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見込み数値までいかなくても、介護業務が遂行できる体制が維持できている為	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 見守りセンサー導入により、夜間帯のご様子確認をモニターより介護スタッフが細やかに把握できることで、当直看護師への状態確認の連絡回数が減らせた 2. 定時巡回以外のご様子が見えるので、お看取りの方、ご心配な方へ取り付けることで職員の巡回効率が改善した 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間の休憩時間確保に大きくつながる⇒急な巡回が減る 2. 昼夜逆転されてしまった方の、日中のケア改善につながられた 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
今は介護専用型個室に使用しているが、今後は自立フロアーにお住いの介護の必要な方への導入も検討出来る	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人緑生福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム南生苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年3月25日	眠り scan、眠り scanEYE		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月11日		令和4年3月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

全 20 台を

- ・ 認知症等により転倒及び転落のリスクの高い方
- ・ 夜間不眠、日中傾眠のみられる方で睡眠リズムの把握の必要な方
- ・ 看取り介護等で常時観察を必要としている方

に対して使用している。

特に転倒リスクの高い方 5 名に対して、眠り scanEYE (カメラ) を設置している。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- ・ 常時見守りの方の状態や状況が分かりやすくなったため、事故防止につながった。また、見守りカメラを使用することで状況がより把握しやすくなり、夜勤帯を中心に職員の負担軽減に役立っている。
- ・ 夜間帯の睡眠リズムのデータをもとに個別ケアの実践報告がなされ、科学的に介護する姿勢につながり専門職としての意識向上につながった。
- ・ 今年4月に実施したアンケート調査 (5段階) では、全職員が導入して良かったと回答している。特に夜勤帯の負担軽減 (100%)、個別ケアの質の向上 (83%)、睡眠リズムの把握 (83%) に効果があった。一方、日勤帯の負担軽減・休憩時間の確保・人員削減の効果にはつながっていないとの回答が多かった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2.2:1 (夜勤職員 5名体制)	2.3:1 (夜勤職員 5名体制) (※効率化分は主にケアの向上へつなげる)
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2.4:1 (夜勤職員 5名体制)	
②と③が異なる場合はその理由	
介護職員の退職後の補充がうまくいかず人手不足の状態であったため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠データ、バイタルデータ等の見守り機能アプリの見方を職員間で学習し、実践発表を通して分析方法やケアの質の向上へのつなげ方を職員間で共有している。 ・カメラ機能を活用し、夜勤帯等の職員が少ない場合の職員の動き方について意見交換している。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のより正確な状況把握のため、睡眠データ、バイタルデータ等を活用している。 ・夜間の職員の負担軽減のため、転倒リスクの高い方について、訪室せずに見守りカメラにて確認している。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識化が進んできたことで、更に収集データに基づく個別ケア計画が作成できる。 ・転倒等の事故の防止や軽減につなげる。 ・職員の安心感や業務の効率化、精神的負担の軽減により離職者を減らすことにつながる。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書（その1）

法人名 （株式会社ミズノ）

事業所名 （ひだまりの郷たけとよ）

サービス種別（特定施設入居者生活介護）

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和3年12月7日		見守りSCAN（パラマウントベッド社製）	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年11月26日	5台	令和3年12月7日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>常時5台使用している。</p> <p>固定ではなく一定期間を設け、全員分のデータ取りを行っている。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）</p> <p>眠りの質の把握ができ、眠剤を適量に提供できるようになった。</p>			

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
<ul style="list-style-type: none"> ・日勤帯, 個室を回るスタッフ2名。 ・遅番 ~21時。早番 7時~。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ・遅番, 早番の時間短縮。20時~7時30分まで1名対応。
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
<p>日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 遅番 ~21時。早番 7時~1名対応。</p>	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>入居者30名に対し、5台の運用では起床時間の把握までには至らず、早番の仕事を遅らせるとその後の業務配分に支障があり短縮には至らなかった。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・センサーのタイムラグやコールが頻回に鳴るなどあり、実際に職員で動くことでシュミレーションやコールの制御など行ったが業務に反映するまでには至らなかった。 ・メーカー（パラマウントベッド様）協力のもと、介護職員に対する勉強会を実施した。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・看取り期においてはある程度の効果があるケースがあった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は西館定員15名と東館15名と分かれており、片方の館15名分追加することで効果がみられるか検討している。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社マザーズ)

事業所名 (グループホーム円頓寺本館)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
令和4年1月28日		眠りスキャン	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年1月28日	18台	令和4年1月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>見守り支援システム眠りスキャンを各居室に設置し、WI-FI を通じて事務所に設置PCでリアルタイムに各居室の状況を把握している。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜勤者の訪室回数の軽減、覚醒時の素早いトイレ介助など負担軽減となったと介護者から好評です。</p> <p>睡眠の質や心拍数などをデータで把握でき、データ提示により医師との連携が密になり、医師からも処方にも有効との評価をいただいている。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
平均月間労働時間 2200 時間	平均月間労働時間 2100 時間
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
平均月間労働時間 2100 時間 職員数に変動はないが、残業の削減と年間休日数が増すことができた	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍数をリアルタイムに確認することにより、不要な訪室を避けることができた。定期巡視から適宜巡視に変更できた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
スタッフルームや休憩室にいる間も PC・モバイル端末にてリアルタイムの入居者様の状況確認が取れるため、休憩時間が増えた。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
職員の年間休日の増加が図れたため、定着率の向上につながる。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人青山里会)

事業所名 (びわじま介護センター)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名			
令和3年12月8日	見守り介護ロボット 「aams」			
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間	
令和4年3月24日		令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【見守り機器の使用状況】

常時、対象利用者のベッドに設置して、対象利用者の状況を確認できる状態にしている。対象利用者の睡眠と覚醒状況、心拍数、呼吸数等のデータは逐一PCやタブレットに転送され、職員が確認できる状態となっている。対象利用者の状況変化を個別設定することによりPCやタブレットにアラート音を鳴動させることができるため、離れた場所でも職員が確認できる状態。

日常的にこれらを活用して、ご利用者の状況把握、アラート音発生時の訪室要否の判断している。また、事例検討で当該機器のデータを活用し、対象利用者の生活リズムの再構築を図っている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

見守り支援システムの鳴動時に連動して確認ができるカメラ映像により、訪室要否判断が可能になり、不必要な訪室により対象利用者を本格的に覚醒させてしまうことが非常に少なくなった。このことは介護従事者にとって大きな負担軽減となり、対象利用者にとっても安眠阻害の防止になっている。

概ね当該機器からPCやタブレットへのデータ転送は概ね順調に行われている。しかし、メインの当該機器の管理サーバーやアプリの不具合や更新などで当該機器が使用不可となることがまれにある。

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人 中野会)
 事業所名 (介護老人保健施設 LA・LA・LA)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和3年11月29日	リコーみまもりベットセンサーシステム		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年11月29日	1	令和3年11月29日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

入所定員100名に対し、常時見守りが必要な転倒・転落等のリスクがある利用者20名程度の中で特にリスクの高い方に対し、日勤、夜間帯両方で2階2台、3階2台、4階2台と各フロアに設置して使用している。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 日勤、夜間帯共に巡回の回数は変更せず行っている。夜間帯は3名の介護スタッフが2時間に1回の巡回を行い、利用者の状況を確認している。導入した利用者と、導入していない利用者と比較すると、導入した利用者は居室での状況、特に夜間帯の動きが把握できるようになった。
 また、その場で見守りできることで、介護職員の心身の負担に繋がっている。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
29人	29人
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
29人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。見守りセンサーを導入後も、人員体制はそのまま継続している。入所定員100名にして、6台の導入では効果薄いのか、時間削減までには繋がっていない。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① 巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行っている。</p> <p>② 見守り機器の導入により、利用者の行動分析と予測をし、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応している。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
導入している利用者の行動分析や予測は行えている。台数を増やしていけば、介護職員の心身の負担軽減や利用者の転倒転落の件数を減らしていけると期待している。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 さわらび会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム さわらび荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
見守り機器の導入日		見守り機器の製品名	
2022. 3. 30		眠りスキャン NN-1320 (パラマウント製)	
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月30日		令和4年3月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>見守り支援ロボットが円滑な機能をするために通信環境を整備したことにより、眠りスキャンでの利用者状況、眠り状況の解析ができるようになった。それと同時に館内どこでも携帯等にて介護記録の入力が可能となり、決まった場所での入力に縛られなくなった。それにより介護業務に係る負担の軽減ができた。</p>			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>場所を選ばず通信環境を整備したことにより眠りスキャンで利用者の睡眠状況が確認できるようになった。夜間の睡眠時間等を確認することにより、昼間の利用者の状況の問題可決の要因対策等ができるようになった。</p> <p>夜間の睡眠状態、心拍や脈拍を確認できるようになったことにより、不必要な訪室を減らすことができた。</p> <p>行事等他施設との繋がりを取れることにより行事の幅が広がり、コロナ禍でも他との繋がりが持てた。</p> <p>会場まで出向くことなく研修に参加ができ、職員の資質向上・移動時間の短縮につながった。</p>			

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
-----------------	------------------------------------

夜勤職員の配置基準上 3名 (実人数)	夜勤配置基準上 2.4名 (常勤換算)
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
現在まだ夜勤配置3名から2.4名への移行ができていない。	
②と③が異なる場合はその理由	
コロナ陽性者が利用者、職員に発生し人間的にも利用者の部屋の配置的にも2.4人に移行するのに無理が生じたため終息まで見合わせたため人員配置変更への実証期間変更により移行時期が遅れている。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯での見守りが可能となり、既存のセンサーマットより早く起き上がり等感知することができ、転倒予防に繋がった。 ・見守り、記録の場所の制限がなくなり場所を選ばず業務ができるようになった。 ・見守りセンサーに加え見守りが目視で必要な利用者にはカメラの利用ができるようになった。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本来の能力の把握、要因対策、プランの立案により、睡眠状態の改善対策を講じる事が出来るようになった。 ・利用者の心拍数や呼吸数、睡眠状態を把握できるため夜間介護従事者の精神的身体的負担の軽減ができた。 ・カメラの導入により見守りが特に必要な利用者は目視での見守りができるようになった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤従事者の負担軽減により職員んの精神的、身体的負担の軽減。 ・不要な訪室が減ることによる時間の有効活用。 ・利用者の状態を早期に発見できるため転倒や転落等の事故防止。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 春生会)
 事業所名 (特養 しょうなあさひが丘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和元年 10 月 18 日	見守りライフ		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 4 年 3 月 31 日		令和 4 年 3 月 31 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

『見守りライフ』 トテックメニティ株式会社

- ・ 常時 10 人の入居者に対し、ベッド脚下に設置し使用
- ・ その方の身体、認知能力により、ナースコール連動時期を設定
→ 「動き出し」「起き上がり」「端坐位」「離床」
- ・ 早めにコールが鳴る事で、職員が余裕を持って訪室し、対応することができる

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ 以前の Wi-Fi では、機器から離れた方のセンサー反応にムラが生じていた
→ Wi-Fi 環境が整備された事で、確実にナースコールに繋がるようになった
- ・ コールに繋がらなかった事により、訪室が遅れヒヤハットや稀に事故に繋がる案件があった
→ 確実に訪室できる事で、事故やヒヤハットのリスクが軽減された
- ・ 脈拍や呼吸数、睡眠時間等の計測値も途切れがちだった
→ 連続した数値で表されるようになった事から、本人の行動パターンや睡眠等が把握でき、ケアプランや 24 時間シート等の内容も、更に内容が濃いものとなった

〈補足〉

- ・ オンライン面会時の画像・音声途切れもかなり解消された
- ・ 入居者様が使用される PC やスマホ等の接続も、より安定が図られた

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 名古屋ライトハウス)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	③ / ④ ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り SCAN/NN-1320、眠り SCAN eye カメラ (パラマウントベッド社製)		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月18日	Wi-Fi デジタルインカムシステム クリアトークカム5台	令和4年3月18日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

- ・館内全ての場所でWi-Fiが繋がるようになり、見守り機能を備えたベッド6台と今回購入した眠りSCANの導入により、以前のような全床を1時間おきに訪室することなく見守りを行うことが可能になった。
- ・以前は、利用者の覚醒状態がわからず業務の流れで夜間のオムツ交換・トイレ誘導を行っていたが、現在は、眠りSCANで利用者の睡眠状態を把握できるようになったため、利用者が覚醒したタイミングで排泄支援を行えるようになった。
- ・眠りSCANは、利用者の呼吸数や心拍数をリアルタイムで把握できるため、看とり期の利用者の状態を見ながら必要な時に訪室している。
- ・インカムを導入したことで夜勤者全員がリアルタイムで情報共有できるようになり、急を要する対応がスムーズにできるようになった。
- ・Wi-Fiが整備されたことにより、ノートパソコンをスタッフルームから持ち出して利用者を見守りながら記録業務を行うことができている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・夜間帯は1時間ごとに全床の見回りをしていたが、スタッフルームで利用者の状態をパソコンのモニターで確認することができるようになり、平均3時間に1回の訪室に削減できるようになった。
- ・携帯しているスマートフォンで見守りカメラの映像を確認できるため、スタッフルームから離れていてもセンサーが反応した居室への訪室が必要かどうか判断できるようになった。従前は、最優先で訪室したにも関わらず、特に問題がなかったというケースも多かっただけに、業務の効率化と介護従事者の精神的・身体的な負担を軽減できるようになった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2.6 : 1	2.6 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2.6 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の定期巡視以外の時間で行っていた訪室業務を必要に応じて実施できるようになった。 ・全館 Wi-Fi 通信ができる環境が整備されたことにより、スタッフルームからノートパソコンを持ちだして利用者を見守りながら電子記録ができるようになった。 ・緊急時は、インカムを使用して夜勤者全員にリアルタイムで状況を共有することができるようになり、それぞれが連携しながら迅速に動くことができるようになった。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー（眠り SCAN）を導入したことで利用者の睡眠の質を高めることができ、日中の覚醒度が上がり、個々に応じた活動を提供することができるようになった。 ・居室で臥床しているの利用者の状況をスタッフルームで管理できるようになったため、巡視にかかる時間を削減されるとともに事故も未然に防ぐことができるようになった。 ・看とり期の利用者の心拍数や呼吸数をパソコンのモニターやスマートフォンの画面で確認できるため、介護職員の精神的負担の軽減につながっている。 ・夜勤者が全員インカムを携帯することでリアルタイムで職員間の情報共有や応援要請を行えるようになったため、夜勤者（特に新人職員）の精神的・身体的負担軽減になっている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi 環境が整ったため、今後はタブレット端末を増やすことでリアルタイムで記録し、記録業務の効率化や簡略化を図ることができる。 ・個別支援の機会を増やし、従来型特養にありがちな集団ケアから個別ケアへと転換することが可能である。 ・インカムを使って新人職員が先輩職員にリアルタイムで質問したり、指示を仰ぐことができるようになるため、新人職員の精神的負担を軽減するとともに、離職率の低下を図ることができる。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人明翠会)
 事業所名 (特別養護老人ホームなのはな苑むつみ)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和3年12月24日	「眠りSCAN (NH-1320)」		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年12月20日	インカム4台	令和4年2月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「眠りSCAN」導入の為、施設内(特養)のどこにいても情報を拾い上げる事が出来る様、Wi-Fi環境を整えた。 ・「眠りSCAN」にインカムを連動させた。 ・「眠りSCAN」に介護記録ソフトを連動させた。 			
<p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境を整えたことで、通信機器や社内ネットワークがスムーズに行えるようになった。 ・インカムを「眠りSCAN」に連動させたことにより、アラート情報をタイムリーに把握できるようになり、必要時に的確な訪室が可能になった。それにより介護負担が軽減された。 ・インカムはコミュニケーションツールとしても非常に有効であり、看護師や他ユニットとの連携がスムーズになり介護動線の短縮化、業務負担の改善につながっている。 			

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人 和光会)

事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)

サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和 3 年 11 月 24 日	眠りスキャン NN-1320 エスパイアシリーズベッド KA-N1411H		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和 3 年 11 月 30 日		令和 3 年 11 月 30 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

1) 眠りスキャン

認知症の利用者が大半を占める 3 階フロアにて使用。同じフロア内のナースステーションにモニタリング用のパソコンを設置し、いつでも利用者の様子を見る事が出来る。またスマートフォンも 2 台準備し、Wi-Fi 環境を経由してスタッフはどこに居ても利用者の状況をリアルタイムに把握している。

2) エスパイアシリーズベッド

センサー内蔵のベッドを 2F フロアと 4F フロアでそれぞれ設置し使用している。各フロアにおいては、ナースコールの使用が難しい方やベッドからの起立時や車椅子への移乗時に転倒リスクが高い方を人選し使用している状況。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

従来のセンサーマットは既設のナースコール設備に別売のアダプターを付け使用する事となっており、使用台数も限られる中で最低限必要な人のみの使用となったり、その都度センサーを移動させたりとスタッフの負担も多かった。またセンサーのコードやコンセントの使用口が多く必要となり、断線や故障頻度も多かった。今回、Wi-Fi 環境が整備された事により、利用者の居室を限定する事無く、眠りスキャンやベッドを利用する事が可能となった。

利用者を動かすのでは無く、ベッドやセンサーの移動のみで利用者の居室周りの環境は変える必要は無くなったので、慣れた環境での生活を継続する事が出来る様になった。

既存のセンサーとセンサー付きベッドや眠りスキャンを併せて活用する事で、利用者に対する見守り環境が大幅に改善され、転倒・転落事故の減少につながった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2.8:1	2.9:1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
2.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
令和4年度はコロナの影響により、8月と12月において苑内の大規模クラスターが発生した。その影響で全体の利用者数が大幅に減少した。看護や介護の職員数は大幅に変動する事は無かった為、人員体制（マンパワー）は②の数値より上回る事が出来た。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
今までのセンサーマットでは、利用者の状態に応じてベッド上に設置するタイプや足元に設置するタイプを使い分けていたが、時には両方使用したり、また一時的に片方だけで良かったりとスタッフも設置に関する時間的な労力が非常に多かった。また誤報も多く、頻繁に居室を訪問するも必要の無い訪問だったりする事が多かった。今回の新たなセンサーではベッド上での設置で様々な設定が可能である為、センサーの付け替えや誤報時等の無駄な作業時間を大幅に減少でき、この時間をケア記録の作成やミーティングの時間に使う事が出来る様になった。時間が有効に使える環境が整い、休憩時間もしっかり確保出来る環境が出来た。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
センサーの誤報等により訪室が必要で無い方の部屋を訪問する事が減る事や、コール音による同室者の睡眠を妨げたりという事が減少した為、利用者の安眠確保につなげる事が出来た。また職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来た為、ステーションでの事務作業や記録に取り組む時間を確保できる様になった。特に夜勤帯におけるスタッフの休憩時間の確保には大きく貢献出来ている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>全館にWi-Fiを設置する事が出来た為、全てのフロアで場所を問わず眠りスキャン等の介護ロボットを使用できる事となった。今までは入所者の病状や状態に応じてフロア移動等を行っていたが、今はその必要もなくなり業務改善につなげる事が出来た。</p> <p>またもう一つの大きな効果として、一昨年より家族とのリモート面会を実施している中、今までは有線LANの場所でしか出来なかったリモート面会が、Wi-Fi環境が整備出来た事に伴い、利用者の居室内や談話室等、場所を問わず面会が出来る事となり、慣れた場所での面会がリアルタイムに出来る事となった。現在ではタブレットも配備し、快適なリモート面会の環境を構築出来ている。</p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人順明会)
 事業所名 (介護老人福祉施設 ジャルダン・リラ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年12月1日	眠りSCAN		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月5日		令和4年3月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

現在、夜勤時に2ユニットで1名の夜勤配置を行う為に、1階と2階のユニットの組み合わせのあるグループのユニットに使用しています。看取り介護等で夜間に状態観察が必要なご利用者様、転倒の恐れのある利用者様へ使用しているところです。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

介護時間の短縮について…夜間の見守りで1階と2階を定時で行き来していた巡視をご利用者の状態に合わせた随時の巡視が出来るようになった。

直接・間接の軽減効果…夜間帯に24時間シートなどご利用者に係る事務仕事をする時間を増やすことが出来た。

介護従事者の満足度…夜間帯に階段を何度も行き来するのが辛いと考えていた高齢の介護従事者の負担が減り、夜勤の勤務をこれからも長期間継続できることとなった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
3.1 : 1	2.9 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
現状、奇数ユニットが存在することから人員基準を下回る配置となる為、困難。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
スマートフォンを活用して介助中であっても異常を知ることが出来るようにした。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠状態を可視化することが出来るので夜間の不眠状態が分かり、日中活動の計画に活かすことが出来る。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
体調不良のご利用者様へ使用することにより急変時において早急な処置・対応を行うことが出来ると考えております。	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 悠)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 結いの郷)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年3月24日	眠りスキャン NN-1320		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年11月30日	インカム 12台	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

(1) 事業所内に Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入。各ユニット内 (3 ユニット+看護) にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする

○導入1年後 引き続き使用している

(2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意

○導入1年後 引き続き使用している

(3) 眠りスキャン (パラマウント製) と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動することから、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。

○導入1年後 引き続き使用している

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

(1) 間接支援の軽減 (記録、職員間のコミュニケーションの情報共有) を目標とする。

☑記録ソフト導入に伴い、間接業務の時間的軽減に繋がっている。また各職種の一斉閲覧が可能であり、情報の共有化は今のところ効果は大きいと捉えている。

☑インカム導入に伴い、情報発信の一斉連絡が可能であり、有事災害時においても効果は大きい。

(2) 間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする

☑日勤帯において、研修機会の充実 (事業計画書内に記載)、キャリアコンサルタントによるセルフキャリアドック導入し、支援員への面談の機会を増やす。人材力の充実を図り、日々の支援の充実を施したい。

☑夜間帯において、十分な休憩時間の確保が出来た。

(3) 職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。

質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う

○アンケート実施後、職員よりの一定の満足した評価を得た

○アンケート実施後、ご家族からの電話の取次ぎなどの短縮効果など評価を得た

従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自の Excel にて運動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者 QOL の向上に努めていきたい。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
1.62:1	1.5:1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
1.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
現在、採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>当事業所においては、ユニット型特別養護老人ホームであり、3ユニット/29人の入居者が過ごされています。</p> <p>3つのユニット（家）が分離されており、それぞれの玄関口より日中は出入りしております。また、夜間帯については、各玄関口を施錠し、内扉を利用して支援をさせて頂いております。</p> <p>日中、各家が独立していることから、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン⇒24Hシート⇒生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。各ユニット（家）内で、i-pad を活用し記録の記載を行う。また、「ほのほのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンにおいて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。<u>（継続している）</u></p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して2名で行っている。眠りスキャンを始めとして、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりがいに繋げていきたい。結果、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p> <p><u>○社内研修においてe-ラーニングを使用するなど、導入1年後からの工夫もみられている</u></p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	

上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。

あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくりに関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりに関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。（継続している）

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社 安芳)
 事業所名 (介護付有料老人ホーム永遠の郷)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年3月24日	眠りスキャン (パラマウント製) ・パラマウントベッドエスパイアシリーズ		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和3年11月15日	インカム 12 台	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

- (1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム 12 台導入。
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。

【整備効果】

- (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)
- (1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮)
 - ☑ 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。
 - ☑ インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている
 - (2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。
 - ☑ 年間計画書における研修の機会を増加。1 回/月 全職員での研修会実施予定
 - (3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保
 - ☑ 30 人の入居者に対して、2 人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。
 - (4) 満足度アンケートを導入半年後、1 年度と行う
 - ☑ 令和4年10月、令和5年3月に実施予定
 - アンケート実施後、職員よりの一定の満足した評価を得た
 - アンケート実施後、ご家族からの電話の取次ぎなどの時間短縮効果、情報の共有化などの満足した評価を得た
- 従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
1. 9 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
継続的に採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。</p> <p><u>○導入1年後、間接的支援の軽減により、休憩時間の確保が出来ている</u></p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。</p> <p>また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に繋げていく。</p> <p><u>○引き続き、研修・勉強会の充実に繋げていく</u></p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わる事が出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることで出来る環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わる事が出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p> <p><u>○継続して期待している</u></p>	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人フロンティア)
 事業所名 (特別養護老人ホームみなとの憩)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4		
見守り機器の導入日	見守り機器の製品名		
令和4年3月25日	無線コールシステム「あんしんの絆」ワイヤレス人感センサー		
通信環境整備時期	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	整備完了日	リースの契約期間
令和4年3月25日		令和4年3月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【見守り機器の使用状況】

○事業概要

- ・見守りシステムの導入により、見守り業務（特に夜勤帯）の業務効率の向上、利用者様の安心安全な住環境整備、介護職員の生産性向上ならびに負担軽減を図りました。
- ・強力な無線 LAN 環境を整備し、施設内全域において、見守りシステムと職員が保有する携帯端末が円滑にネットワークアクセス出来る通信環境を整備しました。
- ・見守りシステムは、ご利用者様にナースコール、またなんらかの移動、転倒等が起きた際に、自動的に職員が所持する携帯端末にアラートが鳴ると同時に、その5分前からの映像が自動に保存されるシステムです。
- ・また、事務所に設置されたモニターには、全居室に映像を逐一確認することができ、職員の生産性が向上し、かつ、ご利用者様の見守りの精度も上がりました。

○導入

- ・令和4年3月25日 導入日
- ・令和4年4月1日 準運用開始（シフト変更 2か月間試行期間）
- ・令和4年6月1日 夜勤2人体制に移行

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ナースコールが同時発生した場合、瞬時に優先度を把握し、事故抑止につながっています。
- ・万が一事故が発生した場合、その原因分析を行い、再発防止策を講じることが出来るようになりました。
- ・不要な訪室を減らすことにより、利用者様がより質の高い睡眠を確保出来るようになりました。
- ・当初、不安に思っていた職員もシステムの安全性を理解し、質の高い介護サービスを提供できるようになりました。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 1人 4階 1人	深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人
③通信環境整備後の介護職員等の人員体制	
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人	
②と③が異なる場合はその理由	
予定通りに、人員削減につながりました。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・無線コールシステム「あんしんの絆」の最大の特徴は、ナースコール呼び出し時において、同時進行的に居室の可視化を図ることにより、職員が訪室の優先度を施設のどの場所においても、瞬時に判別できることにあります。 ・特に夜勤時において、当該職員は、手持ちの携帯端末を外線電話と連動することにより、施設外線電話、ナースコール、居室内の状態確認が、瞬時に対応出来ます。また、素早く訪室することにより、転倒転落事故を未然に防ぐことも可能となり、一人一人の職員の介護サービスの質が飛躍的に向上すると同時に、生産性向上にもつながりました。 ・結果として、当施設では、これまで原則、1ユニット1名（施設全体3ユニット3名）の夜勤職員体制をしてきましたが、本システム本格導入後、夜勤体制の人員を削減しても、より質の高いサービスが提供出来ることを前提に、事業所全体3ユニットで2名の夜勤職員体制に移行することができました。これによって、施設全体の職員の労務負担を軽減出来ると同時に、シフト削減によって削減された人件費は、夜勤職員に配分すると同時に、施設職員福利厚生費に充当しました。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯端末から、利用者様の状況を適宜映像で確認することにより、不要な訪室を削減することが出来ます。これによって、利用者様の睡眠の質が向上し、当社が目標とする「夜間ぐっすりプロジェクト」を推進することができるようになりました。 ・「夜間ぐっすりプロジェクト」とは、医師と連携協力し、利用者様に質の高い睡眠をとっていただき、生活リズムを整え、より健康的に暮らしていただくことを目指す取り組みです。 ・結果的に本プロジェクトの推進により、夜勤職員の労務は軽減され、見守り業務に徹することにより、効率的に休憩時間を確保することが出来ることになりました。 ・また、本システム導入により、万が一発生した居室内の転倒転落事故に対し、その原因分析を具体的にまた速やかに実施し、再発防止策を講ずることが出来るようになり、結果として、行政、医療関係者、家族様に的確に状況を説明させていただき、より安心していただくことが可能となりました。これにより、事故対応に要していた人員、時間の削減ができました。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的に見守り体制が強化され、昼夜を問わず、ナースコールによって利用者様と職員が密にコミュニケーションを図ることが出来、介護サービスの質の向上につながりました。 ・ご利用者様の転倒・転落のメカニズムを探ることも可能となり、事故防止、より効果的な再発防止策を講じることが可能となりました。 ・本システムが、一人夜勤体制の職員をある意味、監理監督する役割も果たし、職員の意識改革、業務改善（業務怠慢の抑止）を促すことになりました。 	